

社会をつくる学びを提案する



社会教育

2025 年 活動まとめ誌

社会教育
zine

読者交流会 オクトーバー・ラーニング

対話・つながり



読者と共に学ぶ

雑誌「社会教育」編集部 <https://www.socialedu.net/>



オンライン 読者交流会

2/4 (火) CS、AI など現代的課題について

●ゲスト：東京都町田市生涯学習審議会会長、吉田和夫さん

AI との共存、知識と技能の学習方法の変化、フェイクニュース、コミュニティスクール、地域と学校の協働、都市部と地方の格差などについて吉田先生と共に話し合いました。

さらに、書籍、雑誌や新聞が苦戦している中、紙媒体のメディアとしての役割、情報を読者に届ける工夫についても、さまざまな意見が出され、なごやかな雰囲気での話し合いが行われました。



4/15 (火) 「ふれあいボランティアパスポート」

●ゲスト：認定 NPO 法人さわやか青少年センター理事長、有馬正史さん

さわやか青少年センターは、ボランティア体験学習を通じて、青少年の「生きる力」を応援しています。有馬さんが、同センターの「ふれあいボランティアパスポート」事業について紹介しました。

概要

ボランティア活動の後、感想を記録



応援したい社会貢献団体（環境活動、世界の子供たちにワクチンを送る等）を選ぶ



同センターが企業・団体から受けた寄付を選んだ団体に送る



ふれあいボランティア体験に参加することで、日本や世界の社会貢献活動を応援できる。

同センターでは、その後の追跡調査も実施。佐賀県神埼市では、小中高時代にふれあいボランティア体験をした子どもたちの約 65%が、新成人になった後もボランティア活動を続けている。

（佐賀県神埼市 2019 年度調査）

有馬さんの活動紹介の後、参加者から感想や質問が寄せられ、意見交換が行われました。

5/15(木) 本の未来、社会教育誌の未来

●ゲスト：いとう啓子さん、編集・ライター、アネスト出版

テーマ：本の未来、社会教育誌の未来－紙媒体の新たな動き

概要

はじめに 出版をとりまく状況

- 1、紙媒体の新しい動き！
- 2、棚シェア型の図書館
- 3、棚シェア型の書店
 - ・棚シェア型図書館、棚シェア型書店 比較、特徴、欠点
- 4、ひとり出版社といわれる個人で営む出版社が増えている。
 - ・オンデマンド出版
- 5、広がりを見せる zine（ジーン）
 - ・盛り上がる zine フェス
 - ・文学フリマ 2025 から

まとめ 紙媒体は社会教育のツールになる

(本誌 2025 年 11 月号 15 ページ～「本・冊子」は人をつなぐ」参照)



静岡県焼津市にある棚シェア型の「みんなの図書館さんかく」
(本誌 2023 年 12 月号より)



後半は、参加者から多角的な意見が出され、発信の重要性、個人の発信ツールとしての出版、冊子づくりによる学び、本誌とサイトとの連動などについて話し合いました。

6/10(火) 「はじめよう、社会教育士」の会

●ゲスト：「はじめよう、社会教育士」の会、東桜子さん

東さんは、昨年9月に開催した「社会教育の架け橋 大交流会」(会場 国立オリンピックセンター「さくら」)の様子を、写真や動画を見せながら紹介しました。

その後、参加者が昨年の交流会の感想や、今後へ向けた期待などを語りました。また、社会教育士の多様な活動や地域差についても意見交換。社会教育人材のネットワーク化を促進することの大事さを確認しました。



7 / 15 (火) 私の青少年教育リカレント

●ゲスト：若者文化研究所代表、西村美東士さん

西村さんは、本誌 2024 年 7 月号に「私の青少年教育リカレントー社会教育の魅力につねに立ち返るー」を執筆している。8 月号では、「未来展望 これからの社会教育に望むこと 対談：デジタル活用 普遍性のある社会教育への展開」に登場している。

読者交流会では、1991 年に出版した自著『生涯学習か・く・ろ・ん』（学文社）を紹介しながら講話。後半は、主に下記について参加者と意見交換。参加者のみなさんから、さまざまなご意見が出され、活気のあるオンライン交流会となりました。

概 要

- ・教育における個人化と社会化は対立するものではなく、相互補完的な関係にある。
- ・教育的目標は個人の充実と社会への貢献の両方を目指すべき。
- ・承認欲求だけでなく、相互承認が大事。
- ・共存から共有する何かを見つけること。
- ・自立して社会に参画する個人になるための支援について。



オクトーバー・ラーニング 読者と執筆者の交流の場

9 / 27 (土) オープニング：表彰式、歩き方教室@日本青年館

毎年 10 月を学びの月として、さまざまなイベントを開催するオクトーバー・ラーニング。2025 オープニングを 9 月 27 日（土）に日本青年館で開催しました。



当日は、馬淵正彦さんの歩き方教室体験会に続いて、Japan Social Education award2024（下参照）表彰式を行いました。

近藤編集長が受賞者に表彰状を贈呈。記念撮影に続いて、イノベーション賞・ゴールド・アーティクル賞を受賞した茨城県水戸生涯学習センター次長兼企画振興課長・鈴木昭博さんが、受賞した記事についてプレゼンしました。

歩き方教室体験会

アワード受賞者に地元市民も参加して、馬淵正彦さんによる歩き方体験会が開催されました。歩き方の基本的な足の動きを学び、基礎的な練習。それぞれ先生からアドバイスを受け、自分の歩き方について考えるよい機会となりました。



Japan Social Education Awards について

2018 年より、読者の投票により前年の優れた記事を表彰しています。オクトーバー・ラーニングのオープニングで表彰式を開催。その後、受賞者、読者、見学者などで交流会も行いました。

過去の受賞者は HP で閲覧できます→



10 / 4 (土) 『モモ』と灰色の学校教育

●ゲスト： 藺田碩哉さん、2022 年度社会教育誌ホールオブフェイム賞

NPO 法人日本余暇会の講座「希望の余暇」の第5回余暇と教育『『モモ』と灰色の学校教育』を、共催でオンライン開催しました。

概 要

日本では効率や生産性を重視し、余暇が軽視されてきた。M・エンデの『モモ』が示すように、現代人は“時間泥棒”(効率主義・スマホなど)に時間を奪われており、本来の「自由な時間＝スコレー」を取り戻す必要がある。

「スコレー」は「スクール」の語源であり、学びの原点は余暇や遊びにある。荘子や『徒然草』の思想にも通じ、遊びは人間の精神的成長の源泉。

しかし、近代の学校制度は時間と規律で人を管理し、子どもの自発性を奪ってきた。イリッチが提唱した「脱学校の社会」は、学びは“教えられる”ものではなく“体験から生まれる”ものである。不登校もその表れであり、「行く自由」と同様に「行かない自由」も尊重されるべき。

今後は、フリースクールや地域での体験的学びなど、多様な教育を認める方向へ進むことが望ましい。社会教育は「スコレーへの回帰」を目指し、地域の中できともに学ぶ実践を広げる必要がある。

提 案 余暇の拡充：残業廃止、完全週休2日、3週間の連続休暇の実現

地域との連携：地域の外からではなく「中から」行う社会教育

遊び半分の学習：労働と楽しみを両立させ、自由で豊かな時間を取り戻す

(2024年2,3,5月号、藺田さんの「余暇とレクリエーションからの社会教育 総括と展望」掲載)



10 / 6 (月) オンライン対談：生成 AI とコミュニケーション

●ゲスト： 西武文理大学、瀬沼文彰さん、シェアリング・ラーニング共同代表、諏訪玲子さん

元吉本興行の芸人で大学教員の瀬沼文彰さんは、若者のコミュニケーション研究から、生成 AI を「検索」ではなく「相談相手」として使う傾向を指摘。

AI が“自分を覚えてくれる理解者”となる一方で、言葉の出所や信頼の根拠が曖昧になる危険を述べました。また、AI 利用のカミングアウトが人間関係で信頼を損ねることもあったと話しました。

(本誌 2025 年 10 月号「生成 AI 時代の若者の情報・活動のとりえ方」24 ページ参照)

一方、諏訪玲子さんは、ChatGPT を活用した経験から「AI と仲良くなる 8 つの関わり方」を提案。メモ整理や自己対話、共創パートナーなどとしての有効性を紹介し、AI を共著にした記事執筆を通じて、「AI と共に書く」ことの意義や抵抗感について語りました。

(本誌 2025 年 7 月号連載「まちの不思議おもしろ探究日記」66 ページ参照)



両者の議論では、AI が“優しい他者”として人間関係の疲れを癒やす一方、対人コミュニケーションの意味や主体性の喪失への懸念も共有されました。AI との共創をどのように社会的に認め、位置づけていくかが今後の課題と話しました。

10 / 18 (土) 社会教育の架け橋 大交流会@オリセン

10月18日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センターで、社会教育の架け橋、大交流会が開催されました。(「社会教育の架け橋実行委員会」と共催)

社会教育士だけでなく、社会教育に関係する方々が参加。トークフォークダンス、パエリア、社会教育士のトレカ、アイスブレイク、AI動画、演劇教育などを楽しみました。

大交流会の様子は、本誌で紹介される予定です。



全国から約50名が集まった

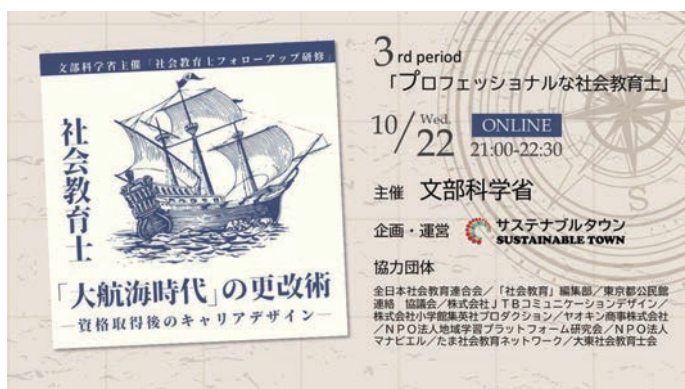


トークフォークダンス



交流を楽しんだ

10 / 22 (水) 社会教育士フォローアップ研修



＜社会教育士フォローアップ研修 社会教育士「大航海時代」の更改術 ―資格取得後のキャリアデザイナー―と共催。

3rd Period「プロフェッショナルな社会教育士」として、「講演等の専門性向上」「会場づくり」などについて、オンラインで学びました。

10 / 25 (土) 「寛容」について一から考えてみよう

●ゲスト：一般社団法人やさしい日本語普及連絡会代表理事、吉開章さん

東京女子大学・森本あんり氏の寛容論をもとに、多様な人々への「寛容」と「不寛容」について参加者とオンラインで意見交換を行いました。



森本氏によれば、アメリカでは宗教的寛容が高い一方、日本では宗教への関心が薄く「無寛容（無関心）」になりやすい。無寛容は関心の欠如であり、状況次第で不寛容に転じることもある。寛容とは、相手を好きになれなくても礼節を守り、暴力やヘイトを避ける態度であり、人権教育に基づく対応が重要である。

参加者は、異なる考えの人と水平な関係で対話する難しさや、「嫌いでも礼節を守る寛容」の重要性に共感。また、不安や無関心から生じる不寛容への対応には、傾聴と礼節が必要であると確認しました。

アンケートでは、テーマへの関心が高く、定期的な議論の機会を求める声が多く寄せられました。

（「やさしい日本語を使って社会教育をバージョンアップ」隔月連載中）



10 / 31 (金) クロージング 振り返り

10月31日（金）、夜8時からオクトーバー・ラーニング最後のクロージングをオンラインで開催。まずは、近藤編集長が、今年のオクトーバー・ラーニングを振り返りました。

後半は、参加者から活動報告やイベントの情報提供もありました。（この情報は社会教育誌 HP にも掲載）

- ・ 図書館イベント「本と体験で知るバリアフリー」「3D 立体模型を触ってみよう」@神奈川県相模原市、11月16日（日）
- ・ 関東甲信越社会教育研究大会神奈川大会、11月20日（木）・21日（金）
- ・ 富山市公募提案型協働事業「とやま市民サークル&フォーラムフェスタ」11月29日（土）
- ・ イベント「人生100歳時代のセカンドライフの考え方・拓き方」、シニア・ハマ・カレッジ、@神奈川県横浜市、11月15日（土）

最後に、参加者と共に、オンラインと参加者同士が顔を合わせる場の重要性について話し合いました。

今年のオクトーバー・ラーニングでは、参加者へのアンケートもお願いし、多くの感想やご意見をいただきました。

11 / 21 (金) 「共読」で人と人をつなぐ

●千代田区立千代田図書館サービスプロデューサー、坪内一さん

坪内さんは、11月号に「共読」で人と人をつなぐ「本の街」神保町の未来とともに」という記事を寄稿しています。記事の内容をさらに掘り下げていきました。

概 要

1. 神保町は700年以上の歴史を持つ街。本の街として発展し、現在は再開発中で変貌期。
2. 書店が減少。書店、図書館のどちらもない自治体の約15%になった。(日本図書館協会・日本書籍出版協会、2024年4月調査)
一方で、独立系書店が登場したり、個人が自由に作れる小さな出版物、zine(ジン)が人気という動きもある。国は書店振興プロジェクトチームを立ち上げた。
千代田図書館は、独自に書店、取次、出版社、マスコミなどを招いた「出版懇談会」を開催し、出版文化の維持・発展に向けた議論を重ねている。
3. 「共読」とは、自分が感動した本について話しあう講座。
坪内さんは図書館、福祉施設などで2015年より行っている。

まとめ

本との出会いは、人との出会い
読者同士の対話により、学び成長できる
人と人との関係が変われば、地域も変わる



2025 年 社会教育誌

- 1月号 特集：生涯学習論 2025 ～諸課題にどう対処するのか～
- 2月号 特別企画 社会教育の未来を語る 社会教育にイノベーションを起こそう！
- 3月号 特集：2024年度の社会教育・生涯学習の総括と2025年度への展望
社会教育・生涯学習・地域学習推進の方向性を探る
- 4月号 特集：おとなの学びと国際潮流 世界の生涯学習
- 5月号 特集：社会教育事業開発の視点
- 6月号 特集：社会教育事業開発の視点(2)
- 7月号 特別企画 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター
～設立60周年を迎えて～
- 8月号 特集：創刊950号
企画1：社会教育の未来構想・羅針盤
企画2：社会教育のエッセンスを抽出する
- 9月号 特別企画 東京2025世界陸上開催とスポーツの魅力
～スポーツボランティアで人と人がつながる～
- 10月号 テーマ特集：こども・若者の活動動向・社会参画
- 11月号 特集：高齢者のデジタルリテラシー、注目！「シェア型図書館・書店」[zine現象]
- 12月号 GXと生涯学習・社会教育



〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-1 一般財団法人 日本青年館
雑誌「社会教育」編集部 TEL 03 (6452) 9021 FAX 03 (6452) 9026
Eメール social-edu@nippon-seinenkan.or.jp <https://www.socialedu.net/>

